

吉田保裕¹: 報告一第46回日本植生史学会談話会Yasuhiro Yoshida¹: Report—The 46th forum of the Japanese Association of Historical Botany

2019年6月29日(土)、30日(日)の2日間に第46回日本植生史学会談話会・講習会「使ってみよう、NEOTOMAとTilia」が京都府立大学で開催された。講師は高原 光氏、佐々木尚子氏(京都府立大学)、林 竜馬氏(滋賀県立琵琶湖博物館)で、参加者は8名であった。また、林氏が世話人を兼任しておられた。

29日はNEOTOMAとTiliaの概要の説明から始まった(図1)。NEOTOMAは古生態学の分野で国際的に使用されているデータベースであり、TiliaはNEOTOMAの標準ダイアグラム作成ソフトである。NEOTOMAは誰でも簡単に古生態学データを検索および登録することができ、時代や対象(花粉やマンモスなど)を絞り込んで検索することができる。しかし、登録されているデータはアメリカとヨーロッパのものが多く、日本ではNEOTOMAがあまり浸透していないことが伺えた。講演会では、研究データをだれでも閲覧可能なデータベースに登録することが重要であるという話があった。データを公開することが、科研費などを使用した研究が国民の目に入りやすくなること、世界全体の研究の発展につながることを、またデータの公表が自然と自らが出したデータの誠実性を示すことになること、自分が出したデータを見て、ほかの人が別の解釈をすることができる、といった内容であった。その後、参加者からNEOTOMAへの登録には最低限どのような情報が必要なのか、NEOTOMAのサーバーはこれからも永続的に管理される保証が十分にあるのか、登録したデータの使用に関する著作権はどうなっているのかなどの質問があり、

NEOTOMAへのデータの登録を前向きに考えていることが伺えた。私はこれまで漠然とデータを公表することは良いことだと考えていたが、これほどに多くの意味を含んでいることを知り、自分の扱っている研究データの扱い方を改めて考えさせられた。

休憩をはさみ、高原氏から花粉計数用カウンターとしてiOS用アプリケーション(Counter Man)が紹介された。談話会では参加者にiPadが支給され、このアプリケーションを実際に体験することができた。最大35個のカウンターを使用でき、計数の途中であっても各分類群の割合や時間当たりのカウント数からプレパラートの出来を確認することができ、非常に便利なものだと実感できた。また、計数結果などの各種データをメールで送ることができるためデータの保存なども非常にやりやすかったと感じた。しかし、アプリケーションが計数に要した時間を記録し、どこでどのくらい休憩していたのか一目でわかってしまうため、学生である私にとっては耳が痛くなる機能であった。高原氏はカウンターを押す動作による腱鞘炎を避けるためにこのアプリケーションを見つけたと話しておられ、私は昨年から花粉分析をはじめ、いまだ腱鞘炎になっていない身であるため、もっと頑張らねばという気持ちを持った。

その後、佐々木氏が用意してくださった資料と解説の元、Tiliaとデモデータを用いて、実際に花粉ダイアグラムを作成する作業を行った(図2)。Tiliaでの作業自体が複雑ではなかったことと、丁寧な解説のおかげで全員が戸惑うことなく作業ができた。また、エクセルファイルをTiliaに対



図1 NEOTOMAの講習の様子(写真提供: 那須浩郎氏)。



図 2 Tilia を使う参加者 (写真提供：那須浩郎氏)。

応する形式で作成しておけば、Tilia にそのまま読み込ませることができたため、いくつかの手順を踏むと一瞬でダイアグラムが完成した。Tilia 上でダイアグラムの加工もできるため、用途に応じて思い通りのダイアグラムを作成できた。

1 日目の講習会の後は、京都府立大学前の鉄板焼きのお店で懇親会が行われた。美味しい料理を食べながら、翌日の講習会や研究、データベースに登録することの重要性など様々な話題で盛り上がり、親睦を深めることができた。

2 日目は、少人数であったことから、参加者の希望にあわせて Tilia でのクラスター分析と柱状図、年代モデルを作成する講習が行われた。講習後は各々が自身のデータでダイアグラムを作製した。一人一人が講師たちから手厚い指導を受けることができ、非常に有意義な時間であった。これまでの研究のデータを Tilia の形式にすることは多少の手間ではあるが、一度 Tilia の書式にしまえば、Tilia のみでダイアグラム、柱状図、年代モデル、クラスター分析の樹形図まで作成できるため、非常に機能が多く、便

利なソフトウェアであると気づかされた。

今回の講習で、自分が出したデータを誰でも閲覧できるデータベースに登録することの重要性と Tilia が非常に便利なソフトであることが知ることができた。今後、研究者として生きていくことができれば、積極的にデータの登録を行っていきたい。これまで Tilia をダイアグラム作成するだけのソフトとして利用していたが、前述した以外にもまだまだ多くの機能があり、使いこなすにはまだまだ時間が必要だと感じた。また、Tilia の多様な機能を盲目的に使うだけでなく、原理や仕組みを理解しなければ、適切に使用することができなと感じた。今後、腱鞘炎になるまで花粉を計数し、今回の講習会で学んだことを研究に生かしていこうと思う。

最後になりましたが、講師の高原氏、佐々木氏、林氏をはじめ、参加者の皆様に心より感謝申し上げます。

(¹〒558-8585 大阪府大阪市住吉区杉本 3-3-138 大阪市立大学大学院理学研究科)